

令和4年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

評価項目	基準の概要	本校の状況	学校関係者評価	
			点検方法	可否
修業年限	2年以上	2年	教育課程表	可
単位認定方法	適切な方法で評価認定されているか	適切	ヒアリング	可
1単位授業科目構成	1単位45時間を標準 講義15～30時間 実習30～45時間	適切	教育課程表 時程表	可
科目構成	大学編入に必要な科目が履修できているか (専門科目 一般科目)	充足	教育課程表	可
修了要件	62単位以上	76単位	単位認定資料 ヒアリング	可
専攻科教員数	3名以上	教諭4 講師1 実習助手2	学校要覧 他	可
専攻科教員資格	告示第63号第11条を満たしているか	全員有資格者	教員免許 (写)	可
専攻科専用教室面積	380㎡以上(確認が必要)	専攻科専用教室423㎡ 看護科実習室740㎡	学校要覧 校内査察	可

令和4年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

自己評価	
専攻科の目標	1 国際化、少子高齢化などの社会の変化に適切に対応でき、かつ、感性豊かな時期に「看護のこころ」を養い、実践できる看護のスペシャリストを育てる。 2 看護の役割を認識し、より高度な専門的知識、技術、態度を習得させるとともに課題 解決能力と人間性に根ざした倫理的判断力を養う。 3 地域医療に貢献できる人材を育成する。
重点目標	1 看護の基本的概念を理解し、看護技術に必要な根拠ある知識と倫理的態度を身につけさせる。 2 基礎・基本的な知識や技術を統合し、健康の諸段階にある対象者の個性に合わせた看護実践力を養う。

2 教育活動に係る事項
(28文科初第35号通知 第1の3関連) 達成状況 ○:十分満足できる状態である ×:改善が必要である(中間期の空欄は今後実施予定)
達成度 A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:不十分である

評価項目	取組内容	評価指標	中間期		年度末		次年度への改善	学校関係者評価	
			達成状況	達成度	達成状況	達成度		評価方法	評価
人間性の育成	・看護職に求められる素養の理解 ・地域医療に対する使命感の育成 ・医療に携わる者としての倫理観の育成 ・自主的な活動を通して協働観を育成	・看護職への理解を深めるような機会がある	○	A	○	A	・校内演習・講義に臨床看護師を招聘することで指導効果を高め、生徒だけでなく新人・中堅看護師自身の相互作用による意識技術の向上に役立てる。 ・臨地実習での倫理的感性を高める働きかけや倫理的視点を意識できるような助言や指導を行い、気づきや意識付けを継続して行う。 ・自治活動として評議員会、総会、ボランティア活動等環境を整え、看護学生としても活動の主体性を引き出すよう働きかける。	学校要覧 行事予定 学校自己評価	A
		・地域医療の現状を知る機会がある	○		○				
		・倫理観を育成するための機会がある	○		○				
		・自治会組織があり定期的な活動が行われている	○		○				
授業実施状況	・規律ある授業の実施 ・知識・技能の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成	・規律ある授業が行われている	○	A	○	A	・授業規律を保ち、学習指導要領、シラバス、臨地実習要綱との整合性を確認しながら授業を進めるとともに、外部講師との連絡・調整を更に密にし、滞りなく履修、習得させる。 ・感染防止に努め、グループワーク、ピア学習、演習を通した生徒同士で思考を深め、判断力、表現力を高める手立てを取り入れていく。	教育課程 シラバス 授業観察	A
		・各科目シラバスに基づいた授業が行われている	○		○				
		・知識・技能の定着を図るための工夫がある	○		○				
		・発問等に思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫がある	○		○				
臨地実習の状況	・「臨地実習要項」に基づいた計画的な実習の実施	・実習施設が十分確保されている	○	A	○	A	・施設・病院からの臨地実習の受け入れ中止の際の校内代替実習が円滑に効果的に行われる体制をさらに整える。病院実習連絡協議会は継続し、課題を共有・協議したうえで臨地実習要綱に示した目的・目標の達成を目指すよう協力・協働していく。生徒の感染防止に対する意識が漠然とならないよう日々、注意喚起していく。 ・臨地実習評価にルーブリックの活用により生徒が自らの課題を明確にし、自己認知することにより課題克服を目指す。評価基準等の検討を重ね改善していく。	臨地実習の手引き ヒアリング 関係資料	A
		・実習期間が適切に配置されている	○		○				
		・実習施設と綿密な打合せが行われている	○		○				
		・指導体制が適切である(課題・記録の提出 カンファレンスの実施 等)	○		○				
		・補充実習が適切に行われている	○		○				
		・危機(院内感染対策 実習中の事故等)に対応した管理体制(予防接種・緊急連絡方法等)が整っている	○		○				
進路状況	・地域医療に貢献できる看護師の育成 ・個の能力に応じた進学指導の実施	・地元医療施設の就職説明会を実施している	○	B	○	A	・感染状況に合わせて看護協会真庭支部との協力を得ながら、地元の看護就職説明会の企画をする。真庭市内就職希望者は2名、大学編入、保助進学希望者はいない。生徒の意思と希望を尊重し、資質・適正と照らしながら慎重に指導を進めていく。 ・市役所での在宅看護臨地実習をはじめ真庭市内の広域で臨地実習できている。真庭市の現状と課題を含め、医療・保健・福祉環境の理解ができる環境と関係性を更に深めていく。 ・基礎的な知識と技術の定着のため個別指導の反復と成果の振り返りにより個々の弱点を自覚させ、回復力を高めていく。	過去3年間の進路状況 ヒアリング 学校自己評価	A
		・地元医療施設へ就職している	無		○				
		・個の希望に応じて高度医療に対応できる人材育成のための進路指導ができている	○		○				
		・資格取得(国家試験)に向けての指導が適切に行われている	○		○				
		・助産師・保健師等への進路指導が適切に行われている	○		なし				
		・進学(大学編入)に向けての指導が適切に行われている	○		なし				